

大学の情報リテラシー教育

CAUA2002・東京

大塚秀治



Who am I

- 大塚秀治 (おおつかひではる)
- 麗澤大学国際経済学部
- 同情報システムセンター副センター長
- 柏インターネットユニオン
NPO-KIU理事
- 私立大学情報教育協会
ネットワーク研究委員会委員など
- CAUA理事
- 情報処理学会
分散システム / インターネット運用技術研究会幹事
- などなど



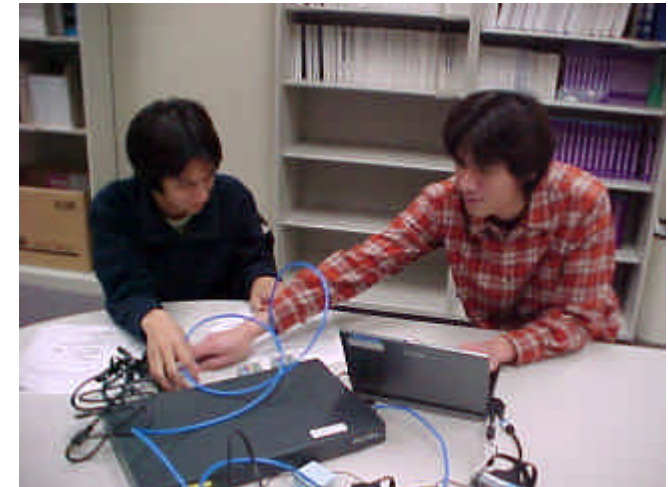
麗澤大学の情報リテラシー教育

- 学生約3,000名(2学部)
- コンピュータリテラシー 2単位
 - 1年次必修科目(レポートを独力で作成できる・発表できる)
 - タッチタイプ・ワープロ・表計算・電子メールなど
 - マナー教育
- マルチメディアリテラシー 2単位
 - 1年次ほぼ必修
 - UNIX・HTML
- 情報倫理 2単位
 - 一部の学科は(職能として)必修



その他の情報教育 (実習) 科目

- コンピュータ科学
- コンピュータ言語
- データベース基礎 演習
- マルチメディアリテラシー B
- データ解析 A・B
- テクニカルライティング
- 分散システム運用論
- ネットワークシステム論
- ネットワーキング (実験) A・B
- 一部の演習



情報リテラシー科目への姿勢

- 「情報リテラシーをばかにしない」
 - 手を抜かない
 - マナー教育は重要
 - 十分な課題
 - 再履修クラスによるケア
 - TAによるケア
 - ヘルプデスクによるケア
(含 : 留学生の母国語対応)

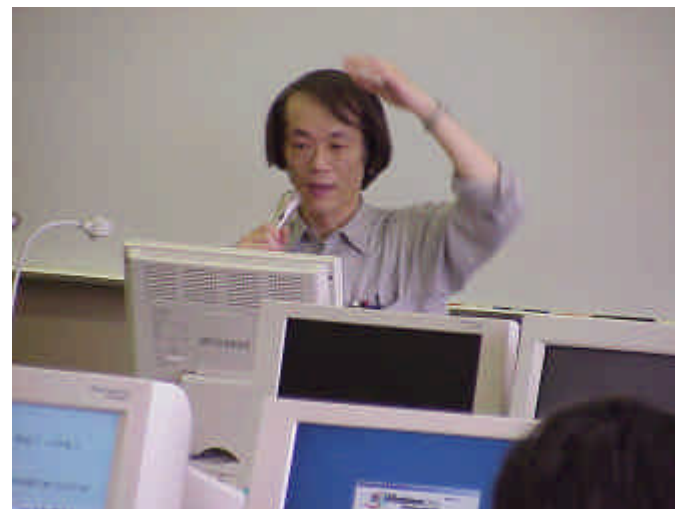


情報リテラシー科目への姿勢

- 担当教員

- 開講コマ数 15 + 再履修 2
- リテラシー担当の専任教員 7名
(といっても他に専門がある)
- リテラシー担当の非常勤講師 5名
- 科目コーディネーター教員制度

- お行儀から指導する(汗)



情報科目履修時の注意

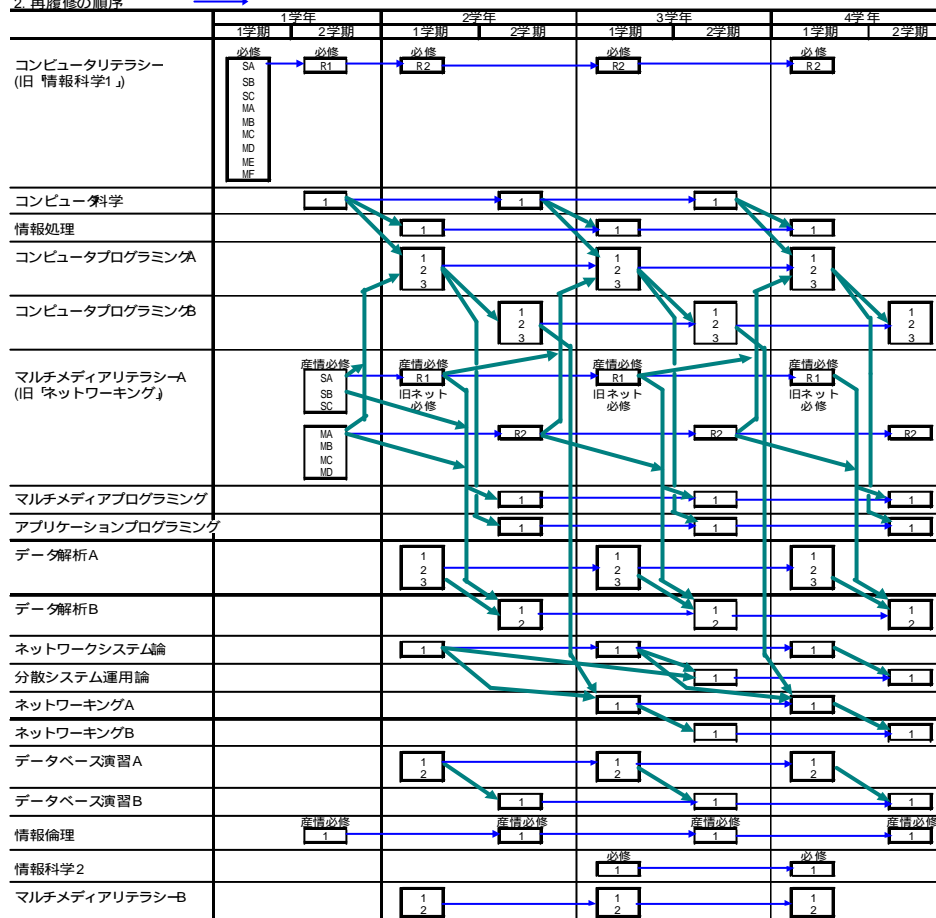
- 情報教育では「積み上げ」が特に重要

- 履修パス」の提示

- 基礎科目を軽視できないしくみ

情報系科目の履修の手引き(2002)

1. 履修順序(必要条件)
2. 再履修の順序



TAとは

- 授業やシステム運用を手伝うアシスタント
- ほぼ学部生で構成
- 約40名を雇用 (時給700円から850円)
- 全学生の約1.5%



情報リテラシー科目への姿勢

- 「共同利用環境下でのマナーの徹底」
 - － リテラシー科目内で利用規則やガイドラインの徹底指導
 - － 誓約書の提出
 - － 違反者への時間をかけた教育的指導

マナー違反の減少



利用者の情報行動は制御可能か？

- 罰の導入
 - 違反の出現頻度は低下するが無くなるしない
 - かなり実験的行動分析学的知見は正しい
- 負の強化
 - 当該行動を取ることによって罰を回避できる場合は当該行動の出現頻度は上がる
 - PPP接続時間・同時利用禁止・ディスク容量・印刷行動など成果

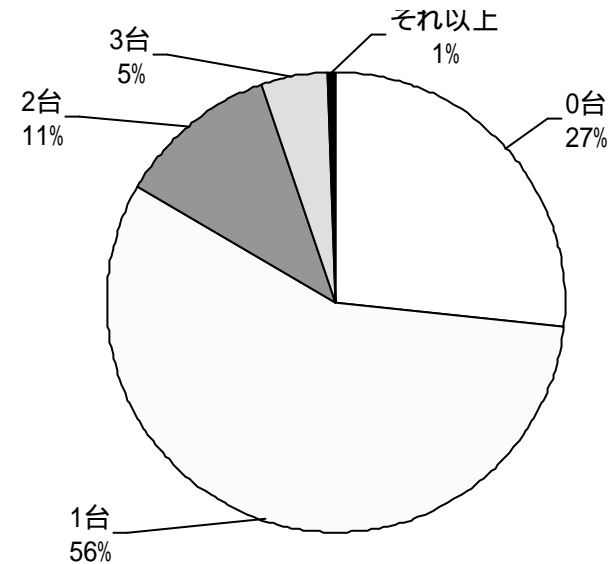
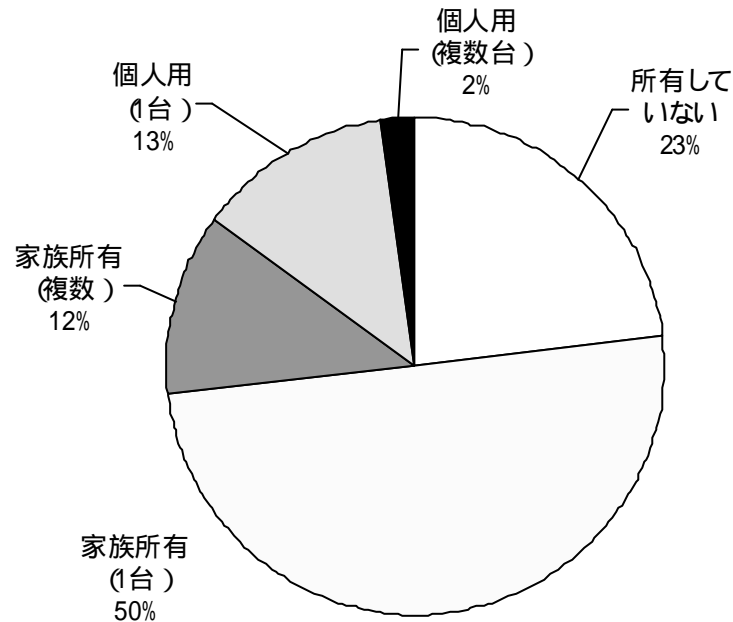
学生の動向

(平成14年度情報処理教育研究集会)

- アンケート調査
 - 新入生オリエンテーション時に実施
 - 回答数 :367 (新入生全体の93.3%)
 - 分析対象 :346名分
 - 内容
 - 期末試験相当のプレテスト
 - コンピュータ環境、利用経験、スキルの自己評価
- リテラシー科目受講後の成績と比較

現状

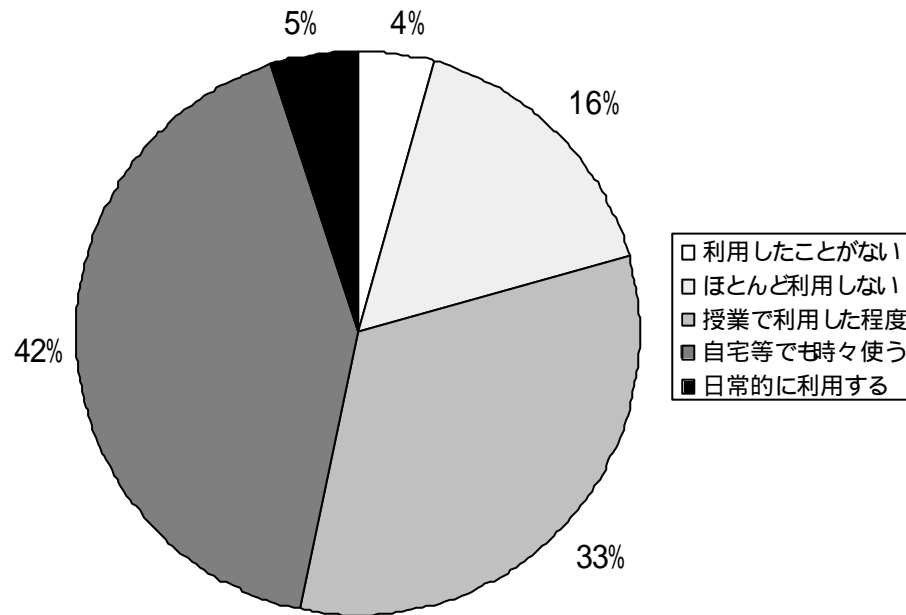
- 環境は整ってきている



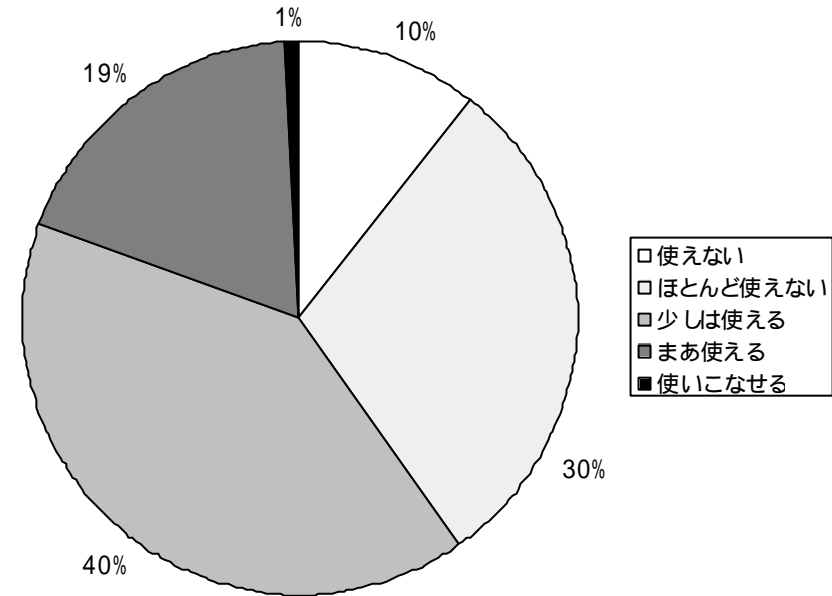
PC所有の割合 と
インターネット接続状況

50%は自宅でインターネット接続
40%は学外メールアドレスを所有
25%は日常的にWebを利用

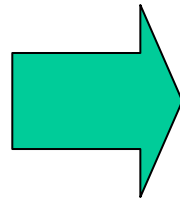
現状



Q. 利用経験について



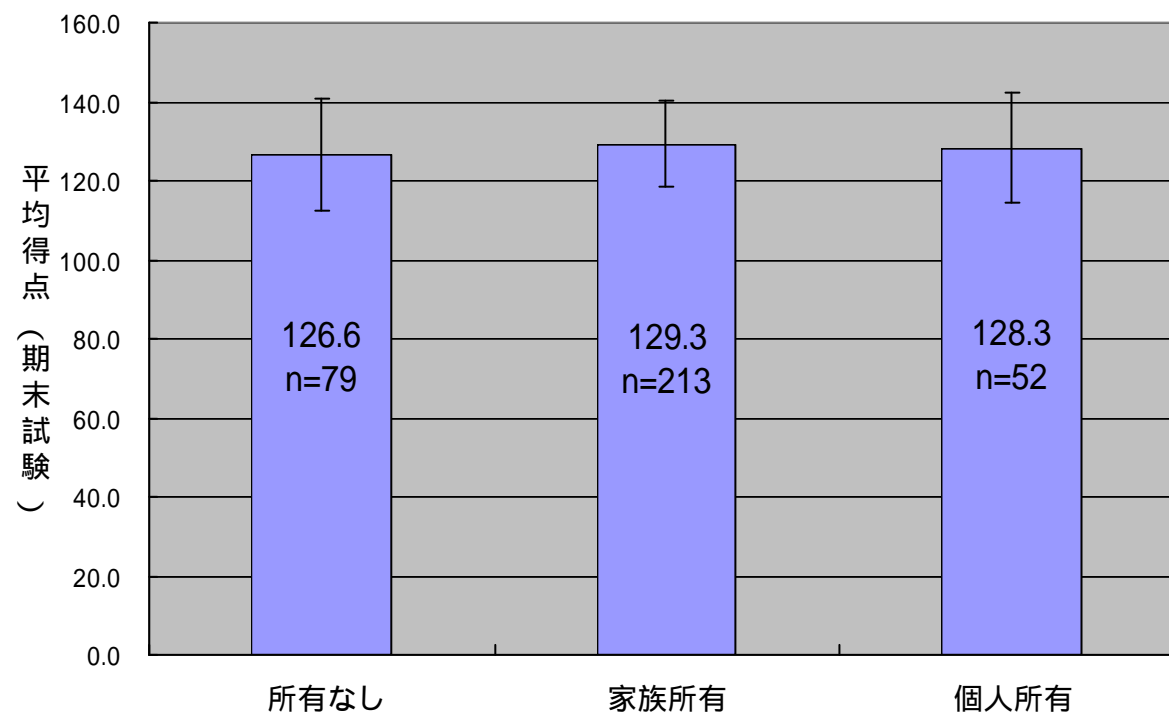
Q. 自分一人で使えるか



半数は「授業で利用した程度」まで
約4割は「自力では使えない」と回答
スキルの差異が広がる

現状

- 環境はよくなっているが、成績とはあまり関係なし

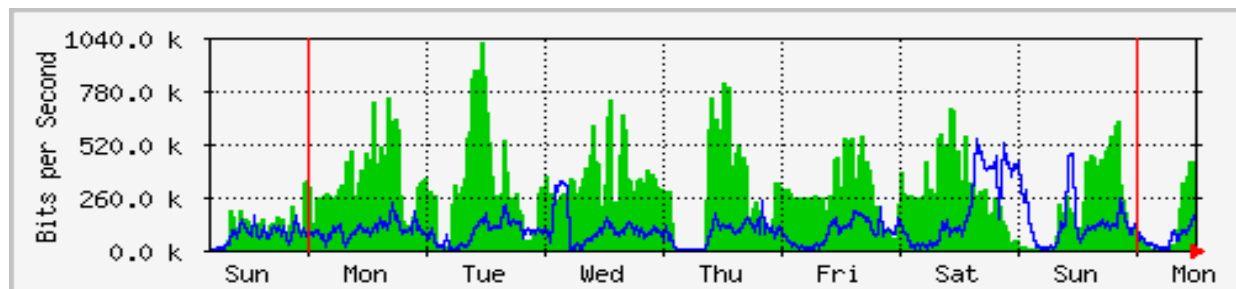


大学でのコンピュータの利用

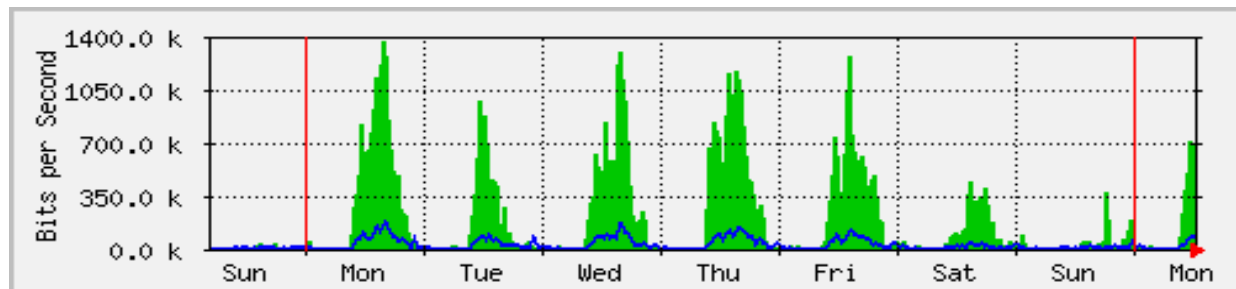
- Webの利用はそれほど多くない
 - 課題に取り組む利用は多い
 - WBTもそこそこ使われている

2003年 10月 7日現在

商用
教育・VPN用



SINET
研究・教育用



教科情報」後のリテラシー

- 大学には大学の情報リテラシーがある
(調査・実験を行って論文をまとめる能力)
 - データの入手方法
 - データの分析方法
 - 論文の書き方
 - 発表や公開
- 大学ユニークな
システム利用のマナー
- 職能としてのリテラシー



教科情報」後のリテラシー

- 入学者のスキル 知識の不揃い問題
 - 能力別クラス編成
 - 同一時間帯に3クラス開講
 - クラス移動
- 高大連携による対応
 - 高校生向けに
情報専門科目の一部を開講
- 愛がなければ
(専任による組立て)



まとめ

- 麗澤大学の事例を紹介
- リテラシー教育をばかにしない
- 教科情報」後も
(教育内容は変わるだろうけれど)
大学としてのリテラシー教育は必要



大学の情報リテラシー教育

CAUA2002・東京

大塚秀治



ネットデイ

- ボランティアで学校の校内 LANを整備
- 全ての教室でネットワークの利用を可能に



ネットデイ



PC再生工房

- ネットワーク基盤はあるけれど
- 普通の教室でもPCを
- 中古のPCを再生しては？
- 学生がボランティアでPCを再生
- 旧麗澤幼稚園に開設

PC再生工房



PC再生工房



SLA

- 情報基盤をどう使う
- 学生がヘルプデスクとして学校に常駐
- まずボランティアベースでの取り組み

SLA



SLA



総務部 CAUA